

令和6年度の教育活動等に対する学校評価書

令和7年3月7日
学校法人貴庵寺学園リリー幼稚園長 川柳玄弘

1 幼稚園の教育目標

心ゆたかにたくましく生きる子

2 本年度の重点課題

- ①体験から学べる環境構成
- ②子ども同士の交流を深める環境構成
- ③身体を動かせる環境構成

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価委員結果

	評価項目	具体的な取り組み	自己評価	評価	学校関係者評価委員会から
1	保育の計画性	- 子どもが自ら「あいさつ」をすることができる。 - 子どもがいろいろなことに興味を持つよう保育を進める。 朝の挨拶に関しては積極的に「おはようございます」と大きな声でできていた。子どもが興味を持つような環境づくりに関しては変化が少なかったように思われる。	B	B	子ども同士の挨拶も大事だが先生が手本となり声かけすることで子どもも自然に身についている。行事ではじける笑顔や歌声に子ども達のやる気や計画性の良さを感じた。
2	保育のあり方 幼児への対応	- 子どもの良い所、がんばりをたくさん見つける。 - 子どもの育ちに対応した(寄り添う)保育をする。 子どもの良い所を見つけ褒めることはできていたが、子どもに寄り添って一緒に遊んだり、会話をしたりすることが少なかった。	B	A	活動過程での努力を認める支援が個々に寄り添う支援となっている。自己肯定りよくも育つ。注意では泣く泣く提案して考えさせて促しているのはとてもいい。
3	保護者への対応	- 子どもの成長「おうちえん」でこまめに伝える。 - 懇談会、面接、電話で子どもの様子を伝える。 「おうちえん」の活用で動画も含め園の様子を伝えることができていると思われる。	A	A	おうちえんでのこまめな連絡、ペーパーレスやレスポンスの速さに繋がっている。幼稚園、先生からも園での活動や行いをこまめに伝えていいる。
4	地域の自然や 社会とのかかわり	- 安全に配慮して、園周辺を散策して自然に触れる。 - 他園との交流を試みる。 年長組が他園との交流をすることが出来て良い経験になった。園周辺の散策は少なかったが、今年度は土手のマラソンを定期的にしていった。	B	A	自然に触れる体験は五感を磨き豊かな感性を育てる場となっている。近隣の小学校や他園との交流会を持つことはとても良い経験になるので年間行事に組み入れてほしい。
5	研修と研究	保育、安全、救急等、園内外の研修を行う。「子どもの育ちを支える環境づくり～ごっこ遊びを通して～」について研究する。(保育) 職員の研修はできていたが、年間を通して細かな怪我が多く感じたので職員間で検証し減らすようにしたい。年間を通して環境(保育室、園庭の玩具等)の変化が少なかった。	B	B	園内外での研修を常に行いより良い保育を目指し、研修している。いくら先生が見ていても子どもの怪我はつきものかなと思う。怪我の対処が早いところはいいと思う。

* 結果の表示方法
A 達成されている
B ほぼ達成されている
C 取り組まれているが、成果がやや不十分
D 努力を要する

4 本年度の総合的な評価結果

園庭で年長児、年中児が一緒になりドッチボールを行っていた。子ども同士でルールを守って行っていることも良かった。また例年に比べて投げ方と取り方の上手な子どもが増えた。

年中組と年少組のクラス数が同じなこともあり、一緒に体操をして交流も深まっていた。また冬のマラソンを3学年定期的に行っていたことが良かった。

職員で心肺蘇生、AED等の研修を医師と看護師のもと行った。

静岡地区私立幼稚園協会のグループ別研修(環境の工夫など)を園内に有効に活かすことができていなかった。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園児(個々)の対応	個々の子どもに寄り添った保育(一緒に遊ぶ、会話等)をより多く行う。
鉄棒、雲梯、ブランコなど遊具の使い方の見直し	鉄棒で手をはなしたり、園庭でぶつかったり細かな怪我が多く見られたので、すべての遊具に関しての使い方を見直し子どもたちが安全に使えるようにする。